

第3回高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会の主な意見

協議テーマ：今後の不登校 施策の方向性について

委員からの意見

不登校施策を考える7つの観点

1 不登校に関する調査研究

- ・不登校に関する調査結果等のデータの収集・分析・取組等提案 等

2 市町村教育委員会・学校の取組支援

- ・市町村・学校訪問による支援
- ・担当者研修と校内研修サポート等

3 市町村教育支援センターとの連携強化と取組支援

- ・オンラインサポートの提供
- ・福祉部局との連携 等

4 相談支援の充実

- ・より相談しやすい相談窓口
- ・対面による支援 等

5 関係機関との連携強化による支援の充実

- ・必要な支援につなげる適切な連携

6 支援が十分に受けられていない児童生徒への取組強化

- ・オンラインによるサポートを推進
- ・居場所の確保
- ・学習支援や体験活動の充実 等

7 保護者支援の充実

- ・保護者交流、講演会 等

全体を踏まえた意見

1の観点について

- 調査研究では、大学との連携も視野に入れ、どういう取組がどういう効果をあげているか分析し、各地教委、学校等に還元していただきたい。
- 不登校児童生徒への対応で一番効果が大きいのは、未然防止と初期対応のスピーディーさではないだろうか。その際、子どもの家庭背景も含めた対応の拠り所として、不登校に関する調査研究のデータ分析が必要となる。

2～5の観点について

- 直接的な支援（子ども、保護者、先生方へのカウンセリングや福祉に関する生活支援等）と間接的な支援の両面から充実させることが求められるのではないかと。
- 多忙な学校で先生方はよく踏ん張っている。その先生方に心の教育センターが研修も行っており、研修後は先生方に少し余裕ができることで、子どもの兆しに気づきやすくなり、早期対応につながっているように感じる。
- 既存の組織間の役割分担ができていているという視点だけでなく、子どもたちが社会に出るまでの全体の成長プロセスという視点から、シームレスな支援が提供される形になっているのかを確認して構築する必要がある。
- 関係機関との連携強化は、心の教育センターがコーディネートの役割を果たすうえで必要だろう。

6・7の観点について

- オンラインですべてが解決するわけではなく、最終的には対面のコミュニケーションまでどうつなげるかが大切。
- オンラインも必要だが、学校という社会の縮図である集団の中で認められたり、耐性を身につけるといった体験活動も大切。
- 支援を行いたいと思っても当事者からSOSが発信されず、支援を求めている家庭への取組について困っている。
- 不登校施策の7点を実施する目的を明確にし、7つの方法論が目的化されないよう、整理することが必要。
- 今後の方向性を考える7つの観点の優先順位をどうつけるかが大切であり、そのためにも実態調査が必要。